

ARCUS

Artist In Residence - IBARAKI

現在のアート・芸術文化を守谷から。

- 問合先 アークススタジオ (もりや学びの里内)
日・月曜日休館 ☎46-2600 (10:00 ~ 18:00)
✉arcus@arcus-project.com
- ◎詳細な情報はアークスプロジェクトで検索!

アークスプロジェクトのアーティスト・イン・レジデンスプログラムでは、これまで33カ国・地域から100組のアーティストを招き、制作活動の支援をしてきました。25年目となる今年度の招へいアーティストは、世界85カ国・地域から665件の応募があり、その中から選ばれた3人です。8月24日(金)から12月11日(火)までの110日間、アークススタジオを拠点にリサーチや制作に取り組めます。今年もどうぞご期待ください!

2018年度
招へいアーティストの紹介

ジハド・ジャーネル

(トルコ/27歳)「映像、彫刻」

トルコでのフォトジャーナリストとしての経験から、戦争や紛争、移民といったテーマに取り組む。今回は13世紀ペルシャの学者によって書かれた本に登場するモンスターと、日本の妖怪を調査し、アバターをつくり、アニメーションを制作予定。



「Abstract Violence」映像、彫刻 (2016)

エリカ・セルジ(米国/28歳)

「ファブリック、彫刻」

アルミパイプやコード、ファブリック、紙などの工業的な素材と手工芸的な素材を組み合わせ、展示空間と呼応するインスタレーションを得意とする。今回は、米国で軍事目的に開発されたクモの糸を吐く蚕、日本の遺伝子組み換え蚕の生産技術や養蚕業の歴史について調査し、制作する予定。



Photo: Tyler Jones



「Entry Right」彫刻 (2016)

イリカ・ファン・ローン

(オランダ/39歳)

「サウンド、映像、写真」

人間と地球の身体的つながりに関心を持ち、目に見えず間接的にしか感じられない地球内部の活動と、人間の無意識とのつながりを作品化する。それらは主に、音、映像、写真、またはそれらを組み合わせたインスタレーションで表現される。今回は「地球と人間のカップルセラピー」をテーマに、茨城の自然環境のリサーチに取り組む予定。



Photo: Tim Mintiens



「Your Brain Has No Smell」オーディオ・インスタレーション (2017)

※インスタレーション：空間全体を使った表現

サポーター募集中

年間を通してボランティアアサポーターを募集しています。アーティストの制作にご協力いただける方はじめ、「国際交流してみたい」「英語での会話を練習したい」「アーティストに守谷や日本のことを伝えてみたい」「アークスのことは詳しく知らないけれど、何だか気になってる」など、どなたでも大歓迎です。アークススタジオへ気軽にお越しください。

※事前にメールか電話でご連絡いただければ、アークススタジオにて、事業の内容やサポーターの活動について詳しく説明いたします。

個人協賛の募集

アークスプロジェクトは、文化の魅力を伝える充実したプログラム運営を続けていくため、一口千円からの協賛金を募っています。詳しくは、公式ホームページの「スポンサー」ページをご覧ください。